

第2回川本来の姿を取り戻すWG 要旨

日 時： 令和元年9月18日（水）10：02～11：58

場 所： 香美市役所本庁舎3階会議室2

参加者数： 19名

1 物部川の課題（現状）の取りまとめ結果の共有（報告）

事務局より、資料1 参考資料1に基づき、第1回WGの意見取りまとめ結果、物部川における環境配慮事例、地名位置図を報告した。

【結果】修正や追加等の意見はなかった。

2 物部川の目指す姿（将来像）の具体化（意見交換）

事務局より、資料2 参考資料2 参考資料3に基づき、清流保全計画での川本来の位置づけ、前回WGでの意見概要を説明し、目指す姿の具体化の意見交換を行った。

また、物部川漁業協同組合から物部川における河床環境改善に関する資料の説明があった。

【主な意見】

○今後、ワーキング会議で意見交換するためには、堰や床止めの図面などが必要。

⇒WGで協議する準備ができれば、WGで情報共有を行う。

○川本来の姿の共通認識を持ったうえで進める必要がある。

○昔の物部川は、栗石が多く、巨石（3t程度）があった。今は、砂利化して、巨石がなくなった。

○空中写真だけではわからない。昔の現場写真の整理も必要。

⇒取りまとめる時に可能な範囲で収集する。事務局に情報提供をお願いする。

○川本来の姿を取り戻すためには、工事後の検証（モニタリング）が必要。

○下流部の石の変化の根本的な原因は、3つのダム。ダムによって土砂供給がなくなった。このため、河床が低下し、巨石も供給がなくなったため、見られなくなった。ダムがある限りは、土砂を供給し続けたいといけない。

○巨石を置くにしても固定方法の配慮が必要。

○上流部と下流部の川本来の姿の取り戻し方は異なる配慮が必要。

○時間が必要だがみんなで少しでも良くなるような取組が必要。

○護岸の前に巨石を置くことなど、水際に変化をつけることが必要。

【WG 検討結果】

○今後取りまとめる配慮がすべてできるわけではないが、今日の意見は、資料2に加えて、取りまとめ、共通認識を持って取り組めるようにする。

3 ワーキング会議での意見の取りまとめについて（協議）

事務局より、資料3に基づいて、説明を行い、取りまとめ方法について参加者に意見を求めた。

【主な意見】

○現場を担当している職員も交えれば、さらに議論が深まる。

○専門家や現場の意見を聞くなど、現場見学会などをしてはどうか。

- 課題の整理だけでなく、取組をプラスしてまとめる必要がある。
- モニタリングは、1回/2週間程度の工事写真であれば対応可能。1回/5年の調査は、生息種数など長期的な指標になる。
- 漁協で3回/年程度モニタリングを行っているが、予算的にもできないこともある。関係者で協力して、工事の前と後をモニタリングしてはどうか。
- 今、川で起こっていること、それに対してどういった取組をしているのか、このことは、わかりやすく流域住民に知ってもらうことが必要。

4 その他

現場見学会が開催可能であれば、事務局から案内を行う。